

教育目標		自主、自立、感謝の精神を抱き、未来を拓く生徒の育成 ～豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる～						
重点目標		①確かな学力の育成 ②豊かな心・健康な体の育成 ③開かれた信頼される学校づくり						
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と授業改善	・指導方法の工夫改善を図る。 ・補習や補充学習を充実する。	・「学習意欲をわかせる学習活動」「協同的探求」についての研修会や授業研究をもとに、全教職員が指導方法の共有、改善を行っていく。 ・「学習の手引き」を生徒、全教室に配布し、いつでも、誰でも学習内容や方法が理解できるようにしておく。 ・「学級経営スキル」の向上を図り各担任が、学級経営目標を明示し、学年や学校間で共有できるようにする。 ・教科部会での検討を綿密にし、教師全員が、年一回の公開授業を実施する。 ・MY学と各教科からのWeekly課題の両立させ、家庭学習の充実を図る。 ・毎日の終礼学習や、週２回のコミュニケーション・トレーニングを継続し、「読むこと」「書くこと」「聞くこと」	・生徒アンケートにおいて、「授業は分かりやすく楽しい」と回答した割合が80%以上になる。 ・生徒アンケートにおいて、「先生は、教え方にいろいろ工夫している」と回答した割合が90%以上になる。	B	・「授業は分かりやすく楽しい」と回答した生徒の割合が全校で78.8%と前年度より1.4%下回ったが、A評価の割合が増えており、概ね達成できたと感じている。 ・否定的な評価が1年生に多いのは、コロナ禍で中学校がどういうものなのかわからないまま、生活が始まってしまい、生活リズムや学習への不安を抱えているということでの表れではないか。 ・「先生は教え方に工夫している」という質問に93.6%の生徒が肯定的であり、前年度より6.1%上回り、目標数値に達することができた。	・丁寧な指導を心がけ、「ふり返しシート」を全校で統一し、授業で習得した知識や技能の有用性を意識させる。また授業内容を深めるためにもMY学を充実させるアドバイスを適宜行う。 ・特に1年生には細やかな指導を必要とし、興味を惹きつけ、「主体的な学習者を育てる」という理念のもとに授業改善を進めていく。 ・「考える力」を重視した学習習慣を身につけさせる。	・宿題を必要以上に出す事は、自分の学習したい課題ができなくなり、自主的な学習につながりにくくなる。宿題の出しについては検討をお願いしたい。 ・「読む」「書く」「聞く」を行うコミュニケーショントレーニングは、検証しながら続けることが大切である。 ・「ふり返しシート」は、今日の自分の行動を見直すことができる。ぜひ活用し進めていただきたい。 ・今年の1年生は、今後も丁寧な指導が大事と考えている。自主性、主体性を育むためにも「今日の目標」「振り返り活動」を徹底し意欲を高めていくことが大切である。
	学習習慣の獲得	・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。	・家庭学習の手引きを活用する。 ・My学ノートの内容充実を図るため、学年に応じた目標を設定する。 ・学期ごとに各教科の学習内容と家庭学習の方法をプリントにして配布する。 ・ミマモルメ等を活用し、保護者に宿題を伝えて連携を図り、家庭学習を充実させる。 ・生徒、保護者ともに宿題が分かるように連絡帳の記入を徹底させる。	・毎日の家庭学習の時間が1時間以上の生徒を70%に増加させる。 ・課題を提出している生徒を80%以上にする。	C	毎日の家庭学習の時間が1時間以上の生徒が、64.3%で、前年度よりも1.4%の改善が見られたが、達成目標である70%には満たなかった。	・家庭学習（My学ノートの活用等）の必要性や重要性を粘り強く伝え続ける。 ・各教科の特性に合った自学の方法を詳しく説明し、家庭学習の意欲につなげる。 ・課題提出の曜日を1週間で分散させることで、日々の学習習慣を身に付けさせる。	・学習習慣の充実をはかるために、放課後学習をはじめとする手厚い指導が必要である。引き続き、生徒に学習内容が定着する取り組みを行っていただきたい。 ・ノートの取り方については、教師側からも学習のポイントを示してあげると効果的ではないか。また、複数のノートの見本のようなものを掲示するなどの工夫で、ノートの取り方を向上させる効果はあると思う。 ・My学ノートについても同様に、いろいろな考え方、使い方があって聞いている。ノートを展示するなど、いろいろな勉強方法があることを示し啓発することで、自分なりの学習方法が発見できるのではないかな。
	読書活動の充実	・読書活動の習慣化、定着化を図る。 ・読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。	・コロナ感染対策として、教師と司書を中心に月1年、水2年、金3年として昼休み開館を継続する。朝の開館は月水金通常通りの開館。 ・朝読書用集団読書を新たに購入して配架する。 ・蔵書の内容を充実させるために、購入図書の検討を行う。 ・年度末に貸出数の多かった生徒を表彰する。 ・各学年分散登校中にコロナ感染対策も含めて図書館の利用指導を行った。 ・読書の記録「読書貯金」をすることで読書を習慣化を目指す。 ・新聞の開架・学級図書の増加。 ・校外学習用の資料をさらに充実さ	読書貯金1人1冊以上（1人25冊以上）	B	・生徒アンケートより「学校は読書に力を入れている」の割合が、59%であった。昨年度より12.4%減である。 ・コロナ禍で図書館の利用方法を模索しながらの1年で「図書館まつり」などイベントができなかった等もあるが、6月の分散登校から、1年生の国語科で図書館の利用指導を行い、全学年で本の貸出ができた。 ・国語科の授業での利用も意識して行い、昨年度の貸出数には満たないが、開館時には20数人の利用がある。 ・読書貯金の活用ができなかった。 ・貸出数が多い生徒への表彰は年度末に予定している。	・読書貯金の活用、貸出数が多い生徒への表彰、「図書館まつり」に変わるイベントを考えて行きたい。	・図書室の利用について、昼休みの運営が難しくなっているが、朝に来室する生徒は増えており工夫されている。 ・来年度は、図書館まつりなどのイベントも継続していただきたい。 ・本のリクエストカードは、子どもたちが興味をもっている本を購入できる。また、教師のおすすめ本の紹介も良い取り組みである。 ・「読書貯金」による啓発活動は効果的であり、引き続きお願いしたい。 ・図書室の読書は、今後、デジタル化が進むと変わっていく。柔軟に考えてほしい。 ・毎年、生徒数は減少している。達成目標の基準が個人になったのは適切である。

教育目標		自主、自立、感謝の精神を抱き、未来を拓く生徒の育成 ～豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる～					
重点目標		①確かな学力の育成 ②豊かな心・健康な体の育成 ③開かれた信頼される学校づくり					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
豊かな心・健やかな体	不登校への対応	・不登校生徒数を減少していけるように、個々に応じたきめ細かい対応をする。 ・一人ひとりの生徒や家庭がなんらかの形でどこか（誰か）とつながれるようにする。	・生徒アンケートにおいて、「学校に行くのが楽しい」と回答する生徒の割合を80%以上にする。「先生は生徒の悩みや不安に親身になって相談にのってくれる」を85%以上にする	B	・「学校に行くのが楽しい」の割合が全体では、69、9%だった。2年生は昨年は70%に達していなかったが、今年度は73、4%になった。1年生は63、3%とかなり低い。「先生は悩みや不安に親身になって相談に乗ってくれる」は2、3年生は8割を超えているが、1年生は62、2%と低い。 ・ほぼ別室に附いていられる人員を配置できたので、別室生によりかかわることができた。 ・伊丹市学習支援センター「やまびこ」やSSWなど、関係機関との連携を深めることができた。	・「学校に行くのが楽しい」と思えるように、教材研究を重ね楽しい授業づくりに努める。 ・学級通信などを通じて、クラスの一員であるという思いを持たせる。 ・別室との情報共有に努め、学年との連携を深める。 ・伊丹市学習支援センター「やまびこ」やSSWなど、関係機関との連携を引き続き深めていく。	・不登校が依然多い現状がある。最近 は入学前からの不登校の生徒や、1年生も多くなっているときいている。小学校との積極的な連携が必要であり、2年生に進級後も、スムーズに登校できるように対応していただきたい。 ・個々のケースでは、不登校の原因がどこにあるかの見極めが必要がある。 ・SCやSSWと連携して対応を行っていたきたい。また、地域人材の活用を積極的に進めてほしい。 ・今年度の別室指導は、人的配置も充実し、学習支援体制が整ってきたときいている。引き続き、対応をお願いしたい。
	生徒指導	・組織的な生徒指導に取り組む。	・生徒指導係を定期的に開催し、情報交換を密に行うとともに、係会の確認事項を学校・学年での共通理解事項としていく。 ・職員間で連携を取り全職員が同一歩調で生徒指導を行う。 ・報告・連絡・相談体制を整え、生徒指導事案の情報共有を図る。 ・問題行動が起こったときだけでなく、普段からきめ細かい対応に努める。	B	・「学校は適切に生徒指導している」と回答している割合が保護者86.2%生徒86.7%と目標には届かなかったが、昨年度より1ポイントずつ上昇した。 ・教職員アンケートにおいて「組織的に対応できる体制が整っている」と回答する割合が89.3%と目標を上回り、昨年度より0.1ポイント上昇した。 ・関係機関やSSW、SCと連携して生徒指導に取り組めた。	・生徒指導事案の情報共有をより一層図るとともに、家庭訪問や教育相談を通じて、普段からきめ細かい対応に努める。 ・生徒指導係会で情報共有したことを学年内や学年相互で共有し、報告・連絡・相談体制を継続して進めていく。 ・今後も継続して、関係機関との連携を進めていく。	・職員室での状況を見ると、学年内や学年相互の連携は出来ていると考えている。適切な生徒指導を行うために、今後も積極的に連携し取り組んでいただきたい。 ・最近の事案は、学校内だけの対応が難しいと聞いている。情報を共有するためにも、引き続き、関係機関との連携強化をお願いしたい。 ・先生方には、日々危機感を持って学校生活全般の指導にあたっていたきたい。
	いじめへの対応	・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。	・いじめアンケートを実施し早期発見、実態把握を行う。 ・生徒や保護者の訴えやアンケートをもとに教育相談を行い、早期対応に取り組む。 ・いじめ事案については、学年・学校で情報共有を行い、職員間で連携を図って、継続した指導を行う。 ・普段の生活より生徒観察を入念に行い、学年で情報共有を図るとともに、声かけをするなど、心に寄りそう指導を心がける。 ・QJアンケート等を活用し、いじめの未然防止に努めるとともに、いじめの認知件数を増やし、いじめの芽を摘む。	B	・いじめアンケートを実施し、教育相談を行っていじめの実態把握と未然防止に努めた。 ・いじめアンケートの結果「いじめられていると感じる」生徒が0%にならなかった。 ・「学校へ行くのが楽しい」と回答した生徒が69.9%と昨年度より1.5ポイント下がった ・「先生は相談に乗ってくれる」と感じる生徒が74.5%と目標に届かず、昨年度より2ポイント下がった。 ・関係機関やSSW、SCと連携していじめへの対応に取り組めた。	・いじめアンケートの結果を学年間で共有を図り、組織的かつ迅速な対応に努める。 ・教育相談後も生徒観察や見守り活動を継続して行う。 ・学級が安心、安全で心の居場所となるような学級経営について研修を行う。 ・担任1人で抱え込まないように、報告・連絡・相談体制をさらに進め、学年で連携して生徒理解に努める。 ・今後も継続して、関係機関との連携を進めていく。	・アンケートを定期的に実施し活用することにより、早期発見につなげてほしい。子どもたちも、なにか発信していると思う。そういう信号をみつけるためにも今後も継続して行っていたきたい。 ・デリケートな問題は、担任の先生が抱え込まないような配慮も重要である。先生同士でも、話しやすい雰囲気など、職場環境・風土づくりをお願いしたい。 ・SNSに関するいじめがが増加している。生徒への啓発活動を行って未然防止に努めていただきたい。 ・いじめに対する教師側の気づきは重要である。生徒観察をしっかり行っていたきたい。また、先生方には「いじめに関する研修」等で研鑽していただきたい。
	道徳教育の充実	・「心の教育」を推進する。	・道徳の授業を中心にすべての教育活動を通じて、命のたいせつさ、相手を思いやる心を育む。 ・教科化によりできた新しい「教科書」の教材を効果的に活用して道徳授業を行う。 ・道徳授業においても生徒一人ひとりの考えや思いを見取り、一人ひとりの成長がわかる記述式評価を行う。	B	生徒アンケートで「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」の割合が全校平均約84%で、1つの学年のみ目標値を上回ったが2つの学年で下回った。道徳の授業だけでなく、学年、学級経営、教科の授業においても道徳教育の視点をさらに高く持ち取り組んでいく必要がある。	・「心の教育」を推進するために、学校生活の土台となる学年、学級経営で仲間作りにさらに力をいれる。 ・道徳の授業においては、教科書の活用を含め、授業力向上（発問など）に向けて研修をすすめていく。特に、内容項目「思いやり、感謝、生命の尊さ」で生徒の心を動かす教材を研究する。	・「道徳の教科化」が導入され、各学年計画的に指導を行っていると考えている。引き続き教師側の道徳観を向上させるとともに、校内研修等で指導の工夫も進めていただきたい。 ・道徳は学校生活、社会生活全般に必要な事柄である。教科を越えて指導を行い、人や自分を大切にすることの教育をお願いしたい。

教育目標			自主、自立、感謝の精神を抱き、未来を拓く生徒の育成　～豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる～					
重点目標			①確かな学力の育成　②豊かな心・健康な体の育成　③開かれた信頼される学校づくり					
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
	体力の向上	・自ら進んで体力を向上させようとする生徒を育てる。	・体育の授業を通して、体力の向上を図るとともに自己の健康面に対する意識を高める指導を行う。 ・部活動では競技力の向上に努める。 ・教師からの説明を分かりやすく簡潔にまとめ、活動時間を増やす。	・スポーツテストバッジ受賞者は3年生35%、2年生25%、１年生10%を目指す。 ・保健だよりについては、熱中症やインフルエンザなどの主要なものについてもHPに掲載し、より細かい情報を発信する。	B	・１年生ではスポーツテストを６月と１０月の２回実施したことにより、体力向上を実感するとともに、今後の課題を見つけることができた。 ・部活動ではコロナウイルスによる休校で競技力の向上が思うようにできなかったが、多くの部活が積極的に活動に取り組んでいた。 ・ＩＣＴ機器を利用することで、視覚＋聴覚での情報提供を可能にし、少ない説明でも理解を深めることのできたので、活動時間を増やす結果に繋がった。	今年度一番の課題である体力低下を解消するために、以下の改善策を立てる。 ①トレーニングを増やすなどして基礎体力の向上を図るとともに、個々の能力を伸ばす活動を取り入れる。 ②授業・部活動ともにコロナウイルス対策を徹底し、ＩＣＴ機器を活用するなどして活動時間の確保に努める。 ③昨年同様、タイムトライアルの結果など学校生活の気づきや成果を掲載する。	コロナ禍の中、体育の授業にも制限あり、生徒の体力への影響を心配している。授業を工夫しながら改善し、今後体力向上に向けての取り組みを進めていただきたい。 ・部活動については、平日２時間、休日３時間の活動時間を堅持していただきたい。 ・生活全般に制限がかかっているので、生徒の体力向上ばかりではなく、生徒がストレスをためないか心配である。
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。	・オープンスクール週間や、授業参観を実施し保護者や地域の意見を学校運営に活かす。 ・学校だよりを発行し地域にも配布する。 ・学校ホームページをタイムリーに更新し、学校情報を積極的に発信する。 ・保健だよりなどを通して、健康管理の啓発を行う。 ・アンケート結果や保護者の意見を考慮し改善していく。 ・メール配信システム「ミマモルメ」の登録家庭数増加の取り組みを進める。	・学校だよりを発行する。 ・自校のホームページをタイムリーに更新する。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が80%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した保護者の割合が80%以上となる。	A	・「学校は、学校の情報を学校だよりやHPを通じて保護者に伝えている。」と回答した保護者が90.9%であった。 ・上記の結果は昨年を若干下回る結果であった。情報発信（学校だより、ホームページの生徒会、部活動、学年だより、お知らせ等）をさらに充実させ、発信を早期に行うことが課題である。 ・保護者アンケートにおいて「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が87.5%で前年を上回った。 ・保護者アンケートにおいて「学校は保護者の願いに応えている」と回答した保護者の割合が83.8%で、昨年の77.2%より上回った。	・アンケート結果や保護者の意見を考慮し改善していく。 ・情報発信（学校だより、ホームページの生徒会、部活動、学年だより、お知らせ等）を継続して充実したものにし、発信を早期に行う。 ・家庭訪問や懇談会等で出た意見等を必要に応じて学年、学校内で共有し、改善できるものについて手だてを具体的に講じる。 ・メール配信システム「ミマモルメ」の登録家庭数増加の取り組みを今後も進める。	・情報発信については、保護者から高い評価を受けていると聞いている。引き続き取り組みお願いしたい。 ・メール配信システム「ミマモルメ」の登録数が伸び悩んでいる。近隣の小学校は１００％登録なので、ノウハウを参考に取り組みを進めていただきたい。 ・来年度、HPがリニューアルすると聞いている。来年度も活発な情報発信をお願いしたい。 ・家庭訪問がなくなり、いろいろな場面で不都合を感じていると聞いている。来年度から再度実施の検討や、保護者と学校、先生とのコミュニケーションを強化する施策を検討願いたい。
学校関係者評価総括 例年行っているMy学ノートの取り組みの検証が必要である。学力向上をめざすためには、基礎学力の定着と学習習慣の獲得がなによりである。学習の根幹に関わる事項のため、効果的な取り組みを行っていただきたい。「不登校への対応」については、個々に課題があり対応の難しさはあるが、SCやSSW、関係機関と連携し適切な対応をお願いしたい。今年度は、別室指導が軌道にのってきている。これを機に、新たな取り組みを確立し、不登校減少につなげてほしい。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、教育活動が行いにくい現状がある。しかし、そのような中で、適切な教育活動を行ってきたことは評価に値する。荒牧中学校では、今年度は「自主・自立を促し、主体的に学び活動する生徒の育成」を主題に研究を進めている。「新学習指導要領」の改訂など、学校教育を取りまく環境が大きく変わる転機を迎えているが、これからの時代に合った教育の実践を期待したい。								
次年度に向けた重点的な改善点 本校では、主体的に学ぶ生徒の育成を柱に「本時の目標」「ふり返り活動」等、生徒たちが「主体的・対話的で深い学び」が実践できる授業改善を行ってきた。今年度の学校評価を分析するにあたり、「学校の授業時間以外に、普段どれくらい勉強しますか」の項目で1時間以上と答えた割合が64.3%であった。家庭学習の時間不足が顕著に表れている。家庭学習を充実させるための手立てをどのように図るか、具体的な対策をとる必要がある。また、生徒一人一台のタブレット端末が整備され、来年度から本格的にICTを活用した授業をすすめる、学力向上に向けての授業づくりの構築が必要となる。また、生徒指導面での大きな課題である不登校問題では、関係機関との効果的な連携を行うために、教職員の共通理解のもと、足並みを揃えた実践をしていく必要がある。生徒には、これからの時代を生き抜く資質・能力を身につけさせることが大切であり、荒牧中学校が目指す教育活動を管理職が中心となって、教職員全体へ周知徹底し実践していく。								